

第 14 回北海道地域年金事業運営調整会議（議事録）		
日 時	令和元年 6 月 18 日（火）午後 2 時 30 分から午後 4 時 30 分	
場 所	ポールスター札幌 多目的ホール A	
出 席 者	・ 調整会議委員 安宅 順子（一般社団法人北海道商工会議所連合会 総括調査役） 小野寺秀樹（全国健康保険協会北海道支部 業務部長） 仙崎 茂和（北海道社会保険労務士会 専務理事） 豊田 英一（厚生労働省北海道厚生局 年金管理課長） 野口 勇人（一般財団法人北海道社会保険協会 事務局長） 林 正憲（北海道高等学校長協会 事務局長） 代理出席 倉内 慶一（北海道高等学校長協会 副事務局長） 藤村 誠（北海道教育庁学校教育局 高校教育課長） 代理出席 高田 安利（北海道教育庁学校教育局 高校教育課主査） 山口 茂雄（北海道社会保険委員会連合会 監事） 山田 直行（北海道年金受給者協会連合会 常務理事） ・ 日本年金機構 丸尾 洋一（札幌西地域代表年金事務所長） 岩 勝美（札幌西地域代表年金事務所 上席副所長） 渡部 勇一（札幌西地域代表年金事務所 地域調整課長） 鈴木 真人（札幌西地域代表年金事務所 地域調整課長代理） 松岡 浩康（札幌東年金事務所長） 佐藤 雅昭（札幌北年金事務所長） 貳枚田 清隆（新さっぽろ年金事務所長） 鳥井 裕文（機構本部 北海道地域部 部長）	
議 事	1. 出席者の紹介 2. 開会のあいさつ 札幌西地域代表年金事務所長 丸尾 洋一 3. 議題 （1） 地域年金展開事業の概要 資料 1 P 1～2 に基づき説明（説明者：上席副所長 岩）	
○委員		
●機構職員		

	(2) 平成30年度 事業実施結果 資料1 P3～5に基づき説明（説明者：上席副所長 岩） (3) 令和元年度 事業実施計画 資料1 P6～9に基づき説明（説明者：上席副所長 岩） (4) 地域年金展開事業の好事例取組紹介 岩見沢年金事務所の取組紹介 資料2 に基づき説明（説明者：地域調整課長代理 鈴木） 4. 意見交換 ●渡部課長 意見交換については、テーマを主に3点にしぼって進めさせていただきたい。 1点目は、今後どのようにして年金セミナーの拡大を図っていくかについて、ご意見を頂戴していきたい。 特に、年金推進員の高齢化・後継者不足が課題になっている。 現在年金推進員は3名おり、年金推進員によるセミナーを実施した学校からは、非常にわかりやすい、聞けてよかったという感想をたくさんいただいております、好評である。 一方で、3名ともに80歳に届くような年齢で、ここ10年は同じ方々に担っていただいているところであり、学校長や教員OBの方の中からどのような形で後継者を確保していけるか、ご意見を頂戴できればと考えている。 2点目は、年金委員の逡減に対する対応策について、ご意見を頂戴していきたい。 協会けんぽでの「健康保険委員」の状況や何か工夫をしていることなどについても、話を伺いたいと思う。 3点目は、地域型年金委員の活用について、ご意見を頂戴していきたい。 各年金事務所からも非常に深刻な問題であると意見が上がっている。 主に年金受給者協会の支部にお願いをし、委員を確保しているところだが、受給者協会会員も高齢化していると伺っており、これについても増やすために策はないか、ご意見を頂戴できればと思う。 まずは、「年金セミナーの実施の拡大」から意見を頂ければと思う。
--	--

	○倉内委員代理 以前赴任していた学校で、年金セミナーを実施し、年金推進員の方に講師として来てもらったことがあるが、こういった仕事があるとはなかなか知られていないのではないかな。 今年度退職する校長が 55 人いる。再任用や専門学校で教壇に立つ人もいるが、働き口が無いという人もいますので、引き受けてくれる人がいるかもしれない。 ●渡部課長 現在、推進員をしている先生は退職されてからだいぶ年数が経過しており、現役世代の方々とは関係性も乏しくなっている。 こういったタイミングや形で、退職予定の方に話をすることができるのか、アプローチ先がわからない状況である。 ○高田委員代理 毎年、退職予定の方を対象に道教委教職員課もしくは福利課で退職者向けのセミナーを開催している。そこで退職金や退職後の生活について説明会を行っているので、その場で周知してはどうか。 開催時期は、各地域によってまちまちだが、基本的には必ず開催しており、夏の時期に開催している。9 月 24 日の札幌地区での開催が最後だろうと思う。 ○豊田委員 直接関係ないかもしれないが、東北厚生局山形事務所に勤務していたときに、年金事務所主催で「年金ポスターコンクール」を開催し、最優秀賞、厚生局長賞、社会保険協会賞などを出していた。セミナー実施やわたしと年金エッセイ募集のきっかけのひとつとして検討してもらえればと思う。 ●岩上席副所長 北海道でも、幼稚園児に絵を描いてもらい掲示を行ったりしているところもあると聞いているので、参考にしていきたい。 ○豊田委員 私と年金エッセイについて、今回会議に出席するにあたり確認したところ、平成 30 年度については、北海道の学生からの応募 32 件はすべて稚内高校からの応募であった。平成 29 年度については 31 件が稚内での 6 件は稚内以外からの応募であったため、その 6 件に対しアプローチを図ることも、有効な手段ではないかと思う。 ●渡部課長 セミナー実施回数を増やしていくにあたり、ご存じであれば教えてい
--	--

	ただきたいことがある。 授業のコマ数が不足しているので、今年はセミナーの開催を見送りたいという学校が増えてきていると仄聞しているが、具体的な状況がわかればご教示いただきたい。 ○高田委員代理 今年度は特に大型連休により休日が多い影響もあり、実施回数を伸ばすのは厳しいと思われる。 ただ、社会保障制度については高校の公民の授業で触れる内容であるし、家庭科の授業でも扱うことになっているので、学校側の工夫次第で授業の一つとして実施するのは可能かと思う。 6月にセミナーの開催要請を実施するとのことだが、前年度の2月には次年度授業の年間計画がほぼ固まっているので、アプローチの際は今年のセミナー開催の周知をしつつ、今年が無理であれば次年度開催の要請を行うなど、2年間分にかかる周知をすることが効果的であると思う。 公民科の分野において、消費者・北方領土など、外部機関から各種セミナー開催の要請を多くいただいているが、学校側としては全部受けるわけにはいかないの、どうバランスを取って授業と関連付けを行っていくかが課題となっている。 講義一遍等ではなく、年金についてどうあるべきかを生徒が主体的に講師と一緒に考えていく参加型の講義を実施していただければ、生徒も体験できて記憶に残り、年金の重要性への理解が深められるのではないかと思う。 PR方法について、12月開催の教育課程研究集会や、全道4ブロックに分かれた地歴公民科の先生20～30名ほどが出席する集会、あるいは毎年1月11日前後に家庭科の先生が出席する消費者協会が主催するセミナーの場を活用して、実施してはどうか。 直接説明する時間をもらうのが困難でも、リーフレットを配付することは可能かと思う。 ○倉内委員代理 税務署でも同じようなセミナーを行っているが、全道の校長が集まる機会に、税の周知に関するリーフレットを配付したり、租税教室の開催案内を行っているの、検討してはどうか。 ○野口委員 今の話でいくと、税務署は周知活動をしっかり行っているが、例えばエッセイ募集については稚内以外の地域からは応募が無い状況であり、年金事務所は取組が不十分であると感じるので、しっかり取り組んでい
--	--

	くべきではないか。 ●渡部課長 様々のご指摘・ご助言をいただき感謝する。いただいたご意見は本格的に検討し、ご相談させていただきながら進めていきたい。 次に、2点目の年金委員の委嘱拡大についての意見交換に移りたい。 年金委員は、地域型は主に高齢化、職域型は社会保険担当者の交代時に後任者の推薦が無いという原因から減少傾向にあり、改善策を講じていきたいと考えているところ。 まずは、協会けんぽでの状況を教えていただきたい。 ○小野寺委員 増減として、プラスになっている数がある一方、辞退する数がそれを上回っていて、結果的に減少しているのだと思う。 協会けんぽでは、事業所から「辞退申出書」を提出いただく際は、必ずセットで後任の方の「推薦書」提出を依頼することとしており、減少が止まった。 他の要因としては、適用事業所数は増えているということと、厚労省と経産省がバックアップしている「健康宣言」がある。「健康宣言」とは、企業全体として健康づくりに取り組んでいることを宣言することであり、「健康宣言」にエントリーするためには、健康保険委員が設置されていることが条件であるため、その後押しもあって増えていると分析している。 結果的に、協会けんぽでは委員が増え、現在は6～7千人ほどいる状況である。 ○仙崎委員 地域型年金委員について、社会保険労務士は皆一人親方で、組織的な動きはほとんど無く、アプローチするにあたり社労士会から声掛けしても、中々手を挙げてもらえない状況がある。 かつては、ある年金事務所でもかなり積極的にアプローチして年金委員を増やしていたという事例を聞いたことがあるので、事務所単位で個別にアプローチすることが重要ではないか。 その際、年金委員になると委員向けの研修会に参加できるというメリットを強調することも効果的だと思う。 また、道内10支部あるので、各支部の支部長に働きかけを行ってはどうか。 ○野口委員
--	--

	地域型年金委員はどんな活動をしているのか。 ●渡部課長 地域の年金の推進という大まかな言い方しかできていない状況である。実際に委員を引き受けていただいている方から「何をすればよいのか」、「何のためになっているのか」という声もある。例えば「こういった方法で町内会にて説明会をやってください」ということを明確にお示しできていないことが課題と認識している。 年金受給者協会の立場から、ご意見やご助言はないか。 ○山田委員 地域型年金委員になっている者は、研修会に参加すれば勉強になる一方、それを広めていく場があまり無い。仮に町内会で研修を行うとして、誰がどういう手順で行うのかが整備されていなければ、実施は難しい。 また、受給者協会の平均年齢は 80 歳ほどであり、協会として世代交代が進んでいない。高齢により年金委員の任期満了時に継続更新しないケースが多い。 新しい会員を募集する術が昔と違い、例えば年金受給開始年齢が 65 歳となり、その分皆さん働いているのでどのタイミングでどういうアプローチをするか難しい状況。 受給者協会連合会にも「指導員」という役職があり、年金委員と似た仕事内容であるが、そういった肩書を嬉しがる会員もいる。年金委員は格もかなり上に捉えられている。 ●岩上席副所長 地域型年金委員になってやりがいを感じてもらえる活動環境を作っていくことが重要であり、今後検討していきたい。 ●渡部課長 協会けんぽの健康保険委員に対する活動内容はどんなものがあるか。 ○小野寺委員 広報誌を発行しており社内で回覧してもらうなどの周知活動や、事業主とのパイプ役になっていただいている。あまりお願い事が多くなり過ぎてしまうと負担に感じられてしまうので考慮が必要なところ。 ●渡部課長 機構では年金委員に対して「しらかば便り」という広報誌を送付しており、今年度から紙面の充実化を図るため内容を一新したところである。こういった広報誌の活用について、ご意見があれば頂戴したい。
--	--

	○野口委員 社会保険協会でも広報誌を発行しており、今年から内容等大幅に見直しを行っている。職域型年金委員に配付し社内で回覧してもらったりすることは良いと思う。 ○仙崎委員 職域型年金委員に対してだけでなく、地域型年金委員に対しても発行しているか。 ●渡部課長 発行している。 ○豊田委員 年金委員の委嘱拡大手段が、すべて関係団体への協力要請にとどまっているように見受けられる。各年金委員が何を必要としているかニーズを把握することも重要なのではないか。 ○仙崎委員 年金委員の方にアンケートを取ったらよいのでは。 ●渡部課長 年金委員へのニーズ調査について今後検討していきたい。 その他、全体を通して意見はあるか。 ○山口委員 年金制度の周知活動について、学校など若年層に対しては盛んだが、地域の商工会議所、商店街へのアプローチが不十分であると感じる。 中小零細企業で働いている人々こそ、年金について切実に考える必要があるので、検討してもらいたい。 ●岩上席副所長 昨年 11 月 30 日に「年金の日」のイベントを行ったが、そういった層の反応が薄かった。ご指摘いただいた意見含め、今後の検討課題であると認識している。 ○倉内委員代理 昨今報道されている、老後の生活資金として公的年金の他に 2,000 万円必要である旨の報道に対して、年金委員は説明できる知識はあるか。 ●渡部課長 そういった説明を年金委員にさせていただくためには、研修等が不足している状況にあり、難しいと考える。
--	--

	5. その他 ●渡部課長 当会議の次回開催日程について、前回 2 月の会議開催時に、今後は年 1 回 6 月の開催に変更することでご了承いただいたところである。しかしながら、当所において熟慮を重ねた結果、委員の皆様に事業概要をご報告し、ご意見を頂戴する機会を多く確保するためにも、やはり 6 月に加えて 2 月にも開催をさせていただくことを検討しているが、異議のある方はいるか。 ○（委員） ＜「異議無し」の発言＞ ●渡部課長 では、異議がないということで改めて来年 2 月に開催させていただきたいと思う。 6. 閉会のあいさつ 機構本部 北海道地域部長 鳥井 裕文
--	--